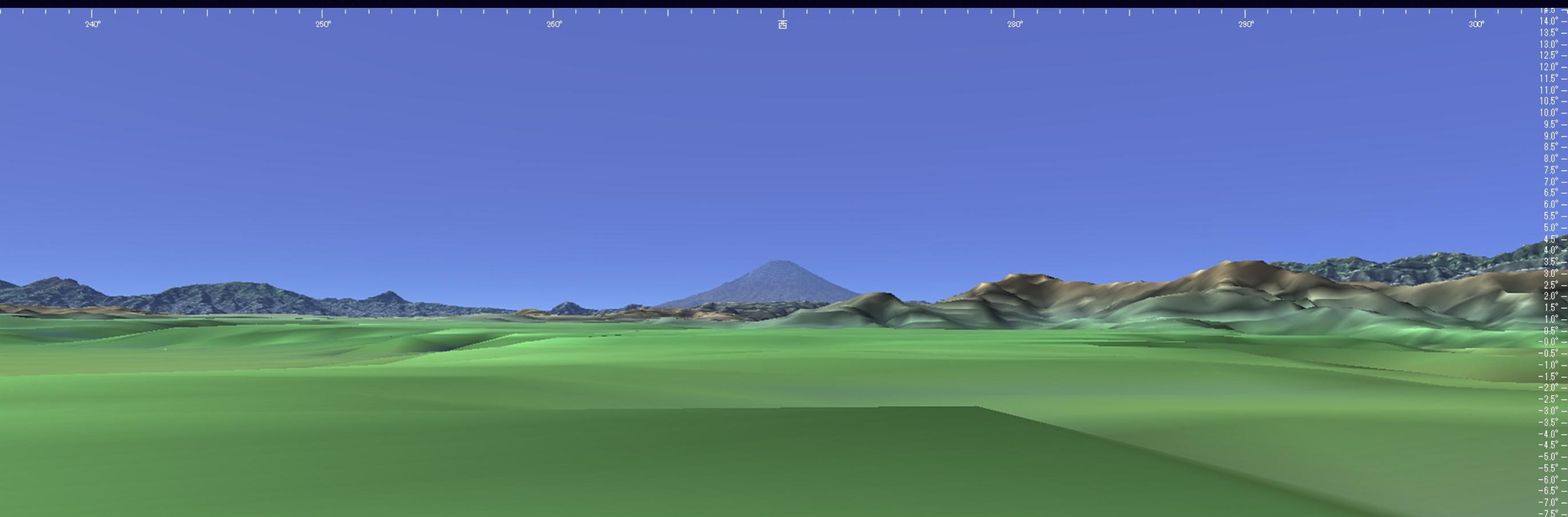


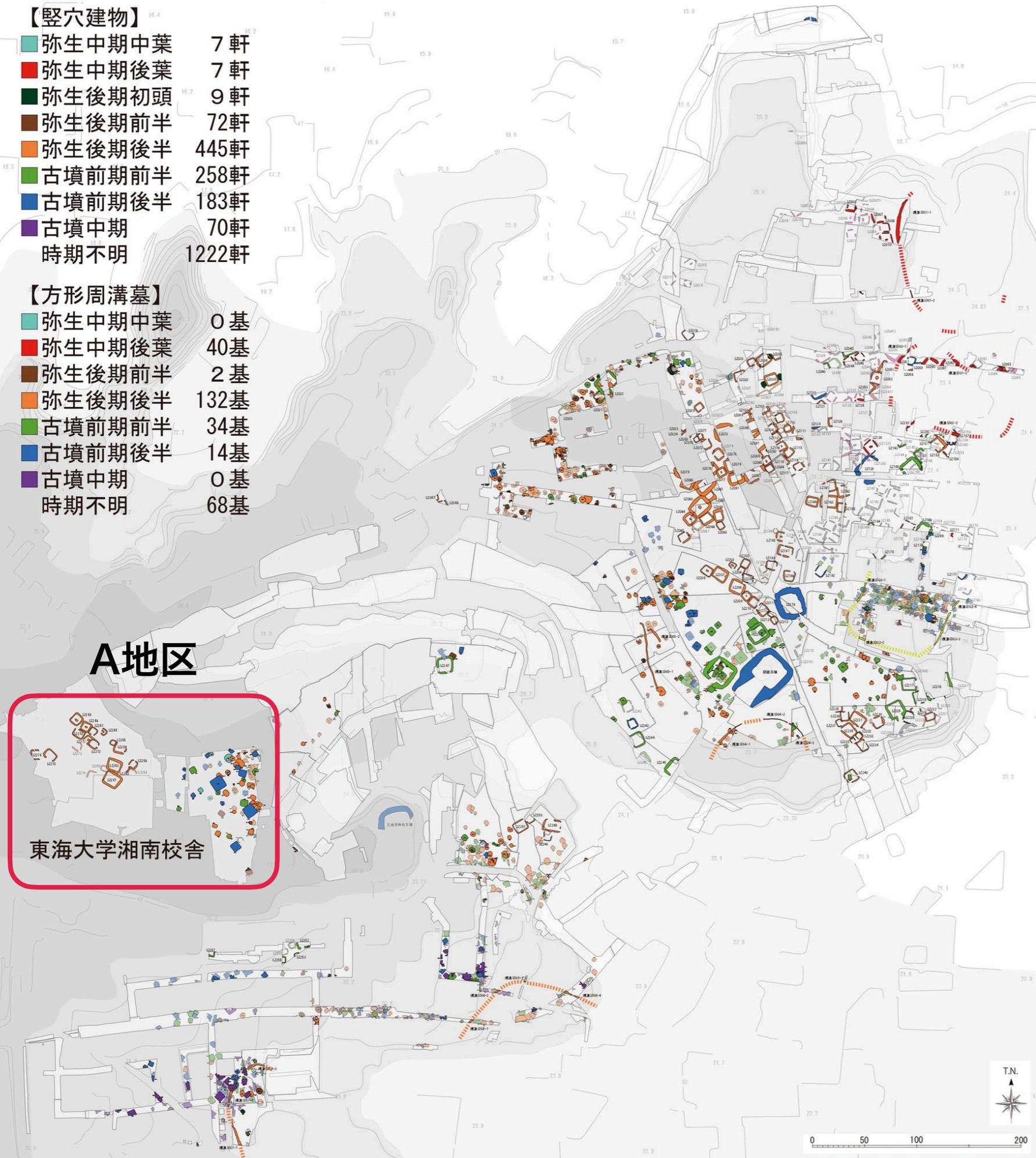
王子ノ台遺跡の首長居宅



北條芳隆 (東海大学文学部歴史学科考古学専攻)

- 【竪穴建物】
- 弥生中期中葉 7軒
 - 弥生中期後葉 7軒
 - 弥生後期初頭 9軒
 - 弥生後期前半 72軒
 - 弥生後期後半 445軒
 - 古墳前期前半 258軒
 - 古墳前期後半 183軒
 - 古墳中期 70軒
 - 時期不明 1222軒

- 【方形周溝墓】
- 弥生中期中葉 0基
 - 弥生中期後葉 40基
 - 弥生後期前半 2基
 - 弥生後期後半 132基
 - 古墳前期前半 34基
 - 古墳前期後半 14基
 - 古墳中期 0基
 - 時期不明 68基



平塚市王子ノ台遺跡
東区の弥生時代から
古墳時代の検出遺構

今回の再整理の結果

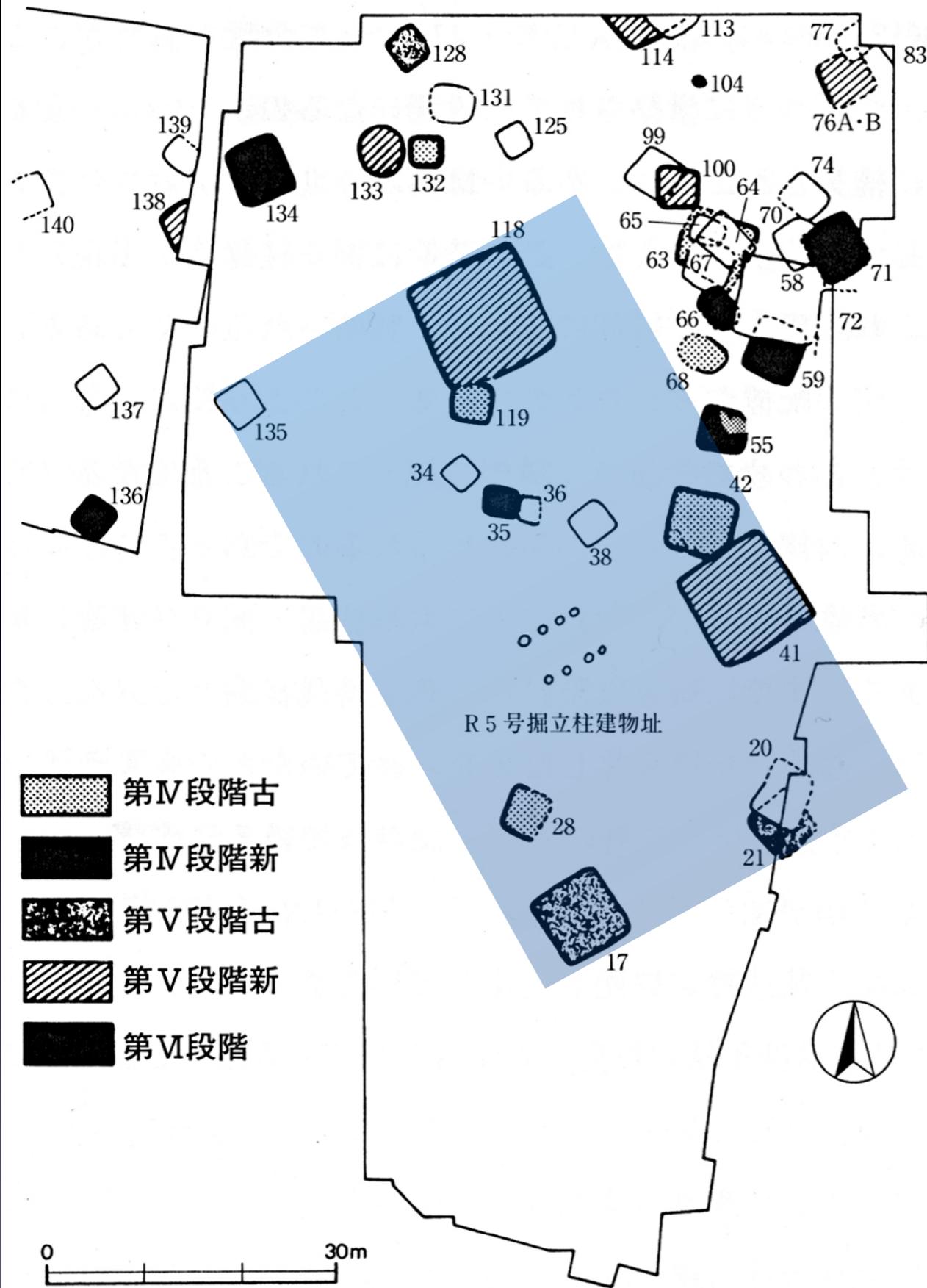
平塚市真田・北金目
遺跡群A地区と定義

標高46mで本遺跡群
の最高所に位置する
居住区画

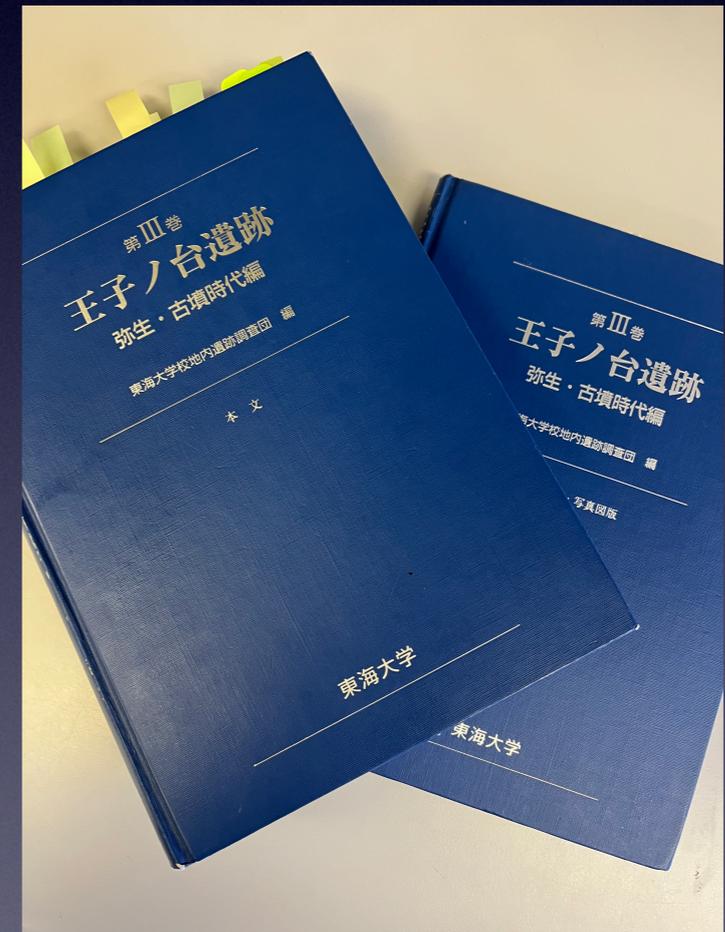
弥生後期後半から古墳
前期後半まで住居址と
方形周溝墓が営まれた

関根孝夫氏の考察

超大型の竪穴式住居2棟と掘立柱建物の組み合わせと建物の軸線が揃う点に注目し、報告書でも「首長の居宅」であった可能性を指摘



第33図 古墳時代前期住居址分布図



ただしこの時点では真田・北金目遺跡群との関係は不明であった

今回の再整理の重要な成果

塚越古墳など前期後半の古墳や大型方形周溝墓とA地区の建物群は直接関連する

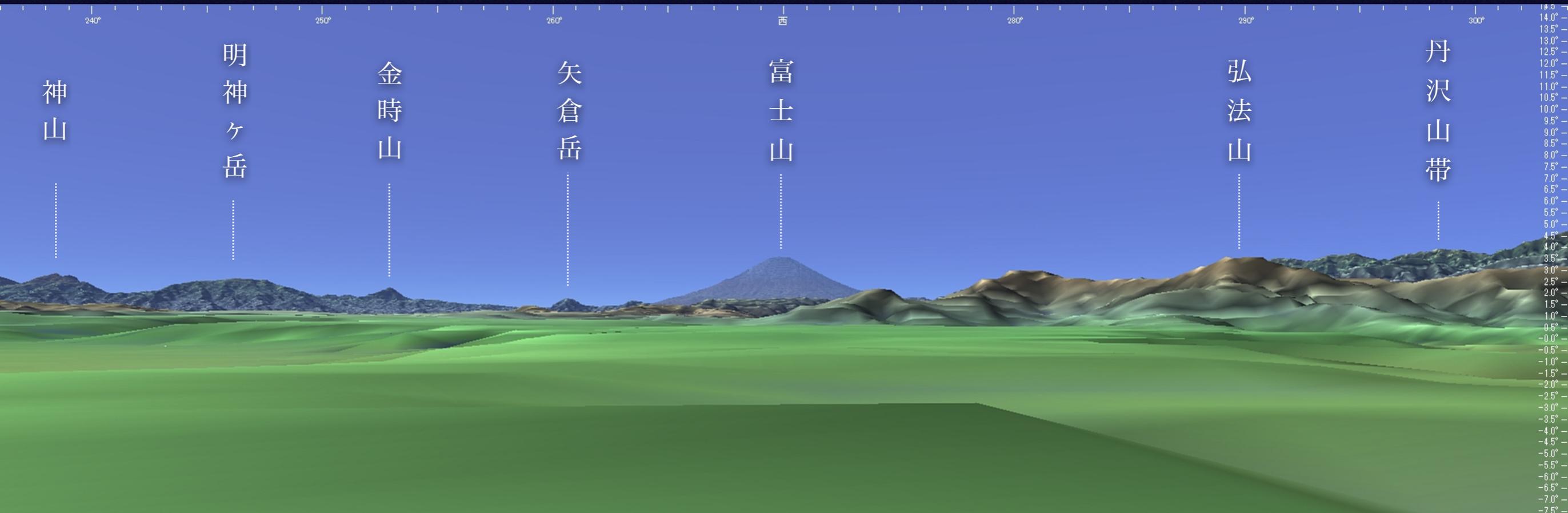
塚越古墳や北金目神社古墳の被葬者は生前にA地区の首長居宅で生活した



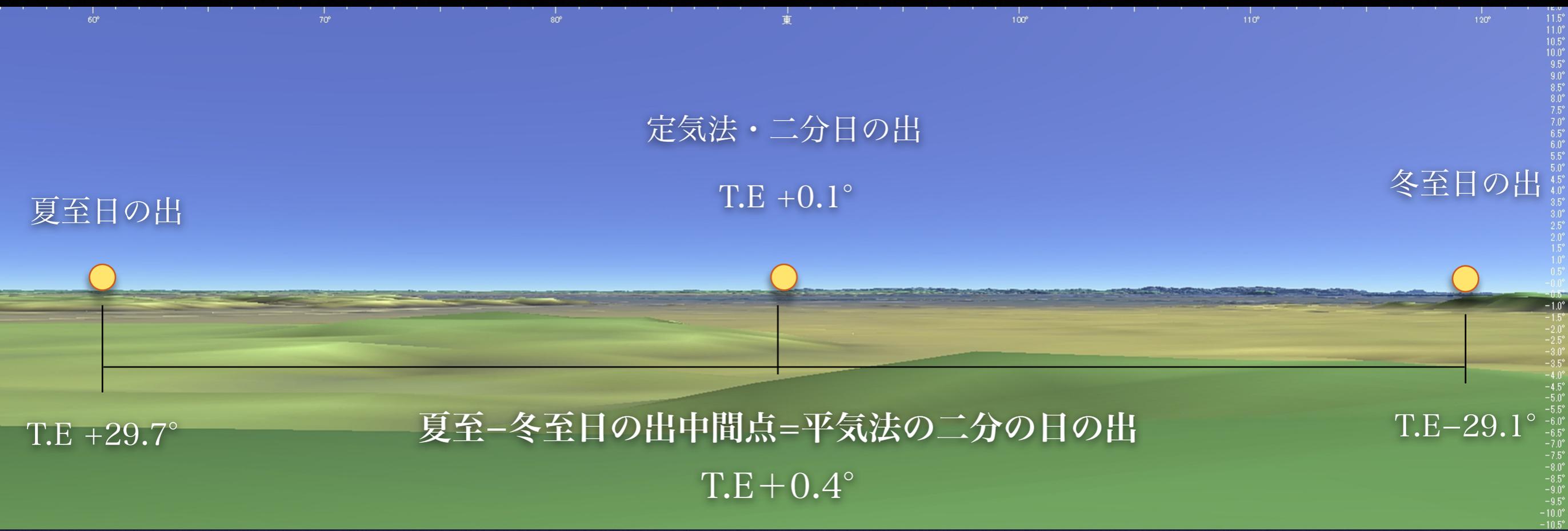
A 地区に居住した首長層の役割

他地区を見下ろす場所だけでなく、天体観測には絶好の環境

日知り=聖や月読みとしてこの地に流れる時間を管理した可能性



A地区から西を見れば富士山を真西に遠望するとともに凹凸の明瞭な情景が広がる



日の出暦と日の入暦の相互補完によって時間を管理した可能性

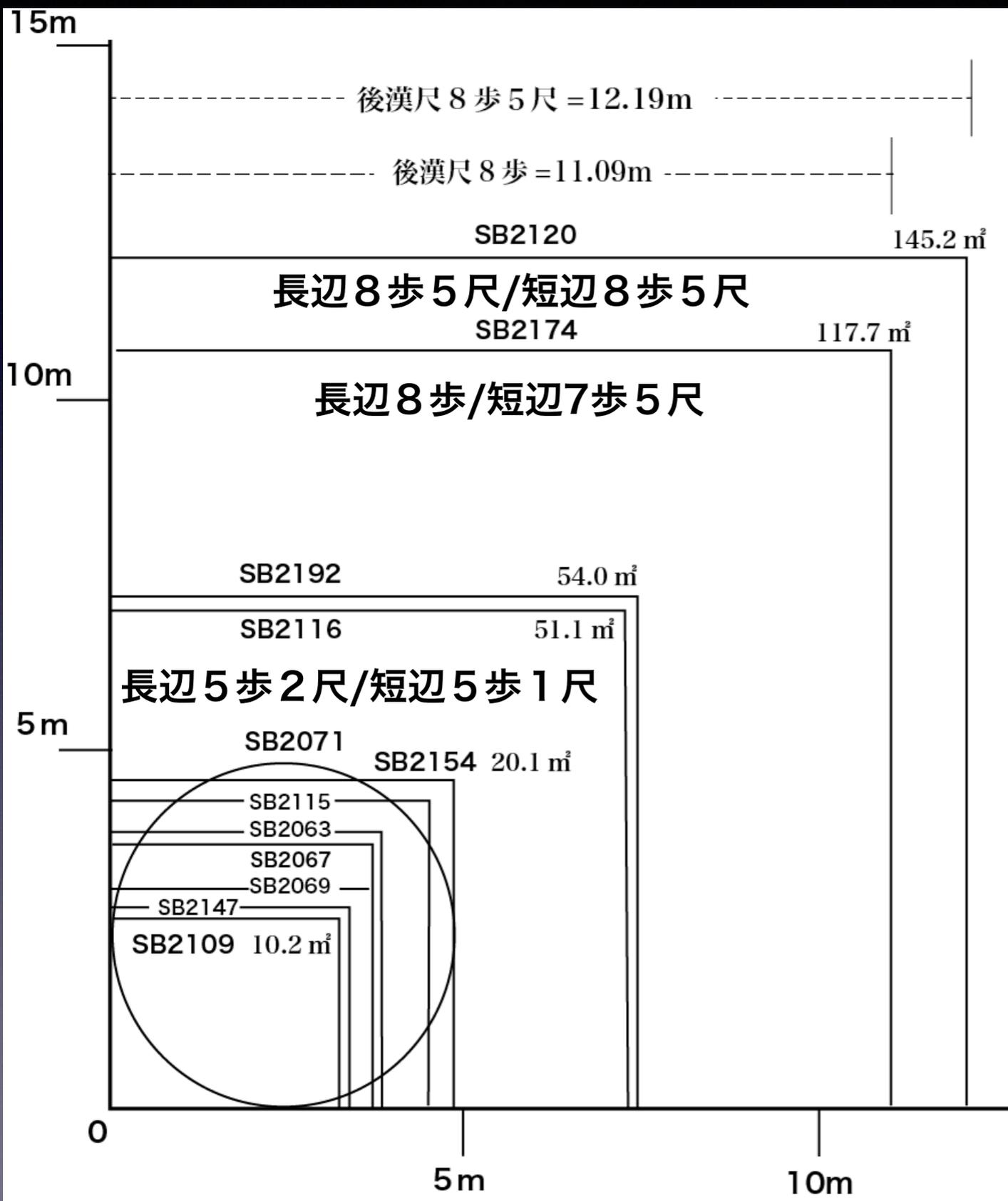
A 地区 竪穴建物群の規模から判明したこと

第1ランクから第3ランクまでの
3階層の規模構成

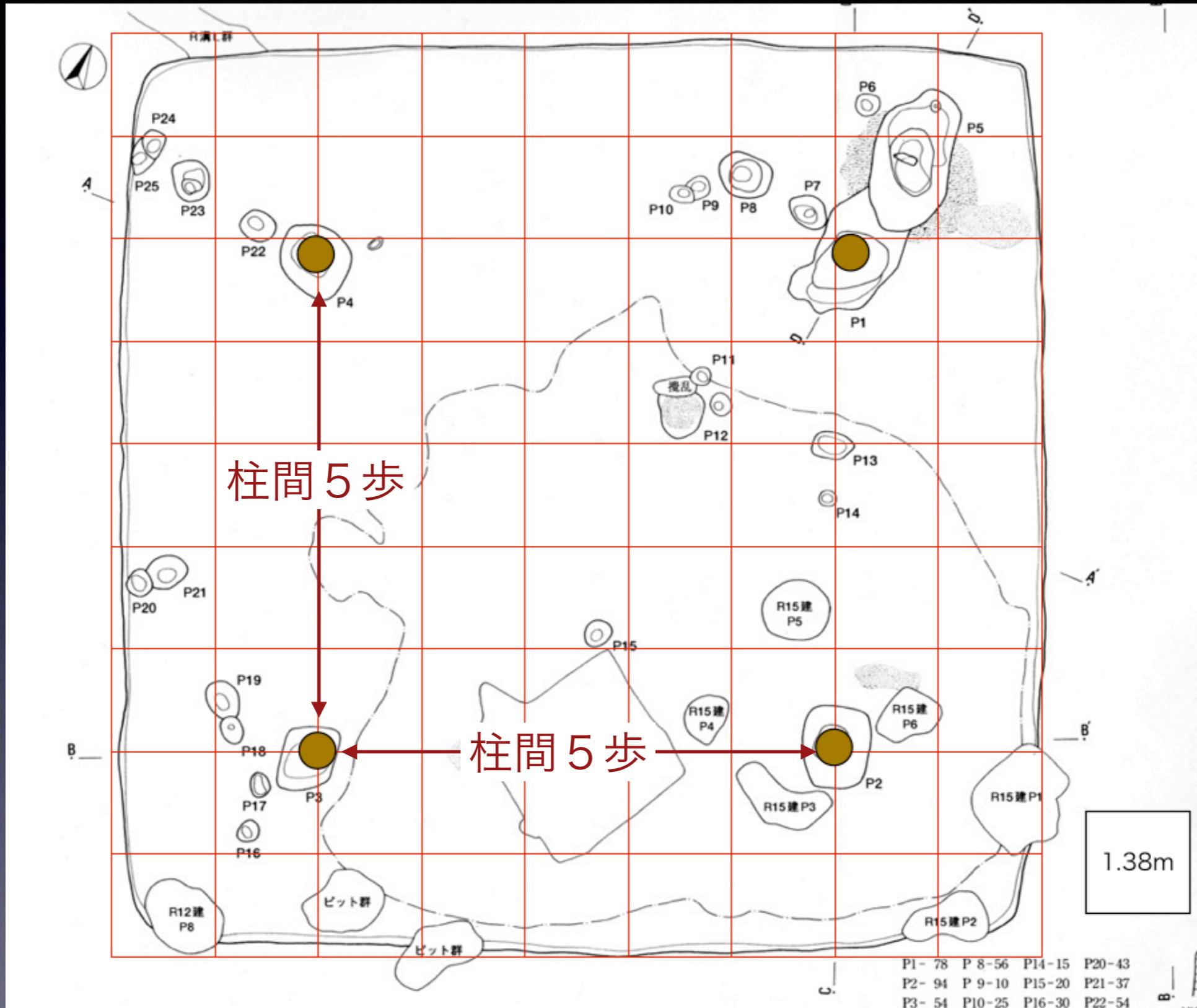
床面積で見れば第3ランクの10倍
の規模を第1ランクはもつ

第1ランクから第3ランクまでの
3階層の規模構成

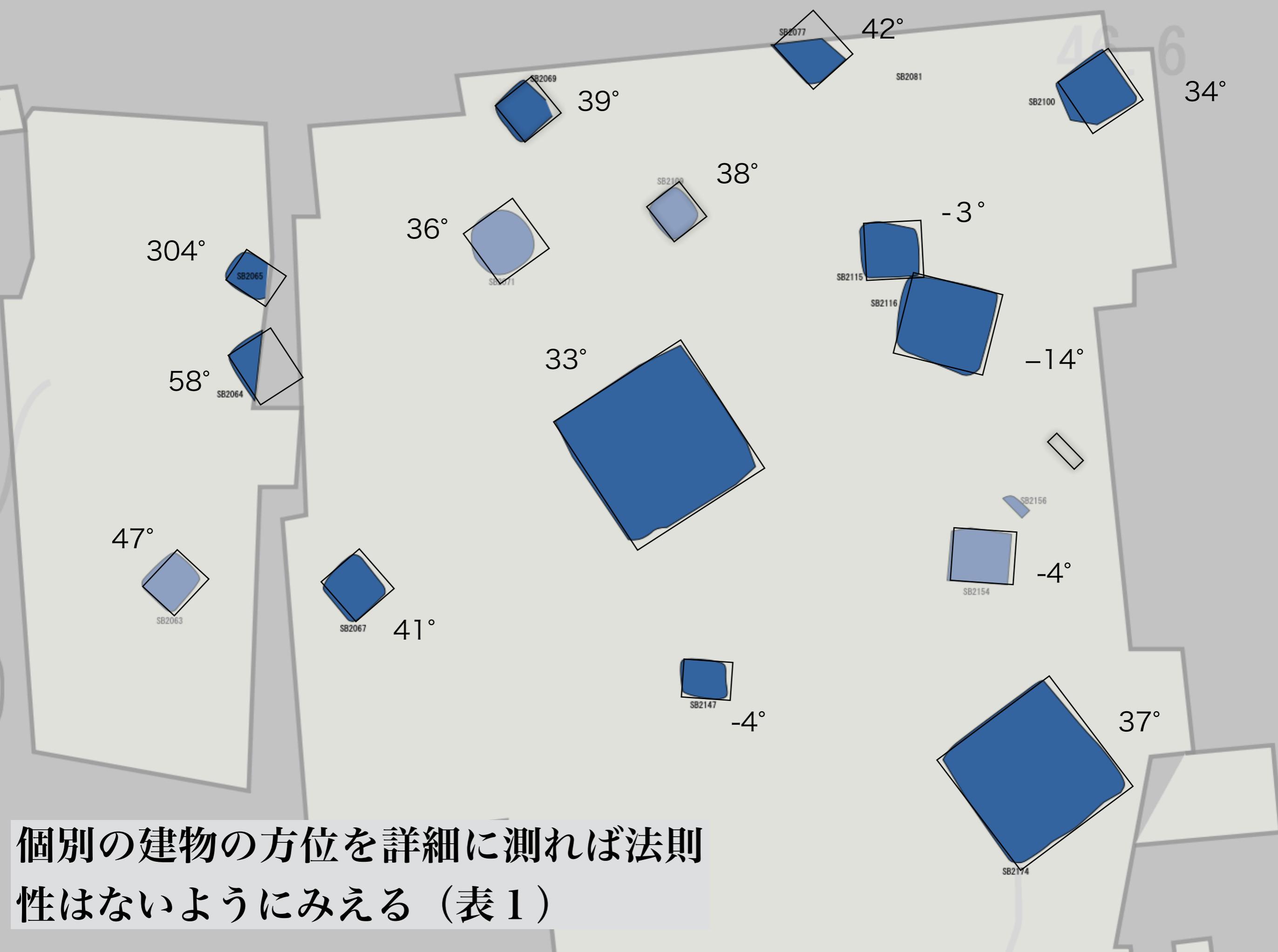
漢尺（1尺23.1cm）の6尺1歩が
基準尺として採用された可能性



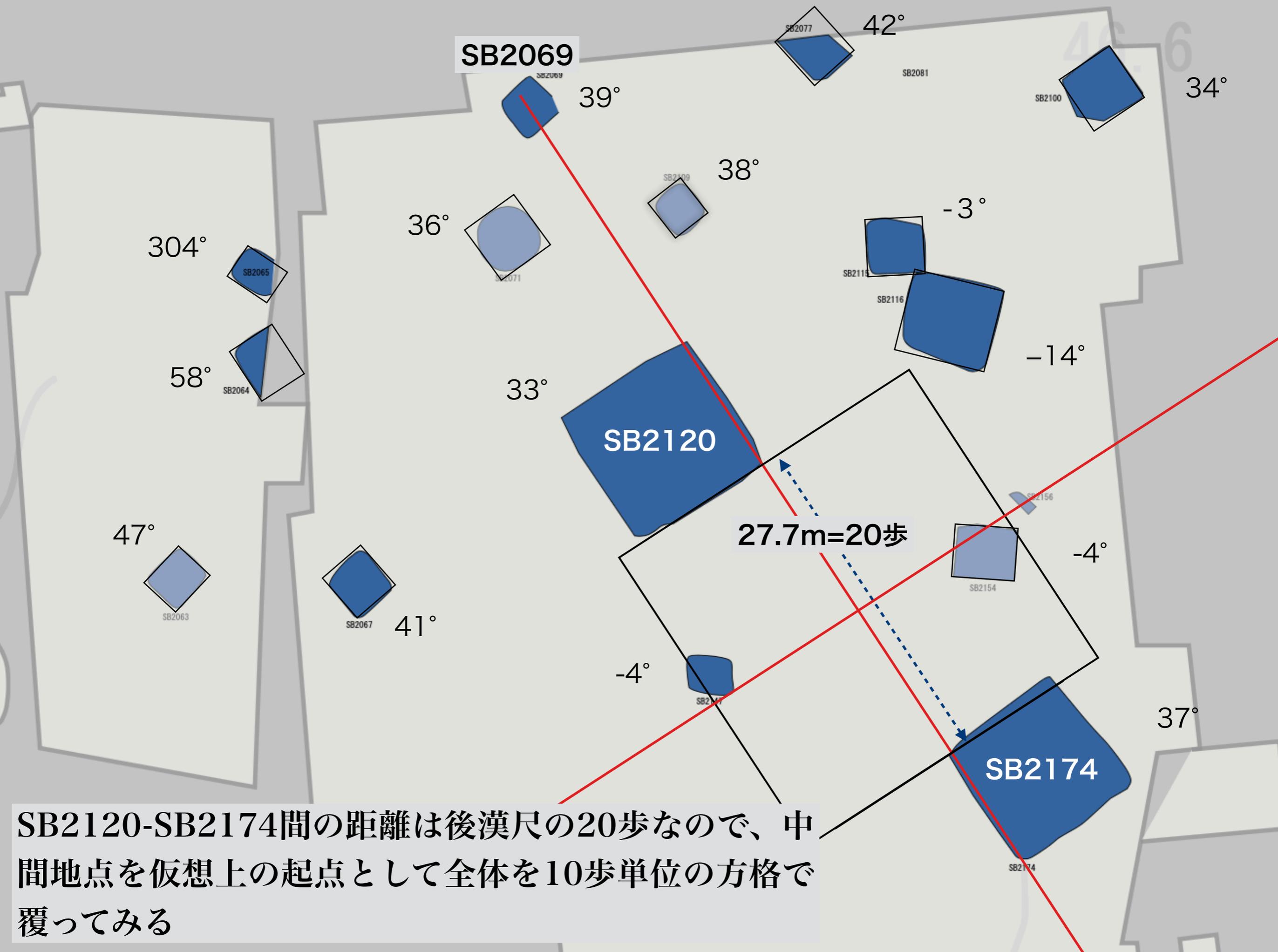
竪穴建物SB2120の平面企画



赤の方格は1歩 (1.38m) 単位



個別の建物の方位を詳細に測れば法則性はないようにみえる (表1)

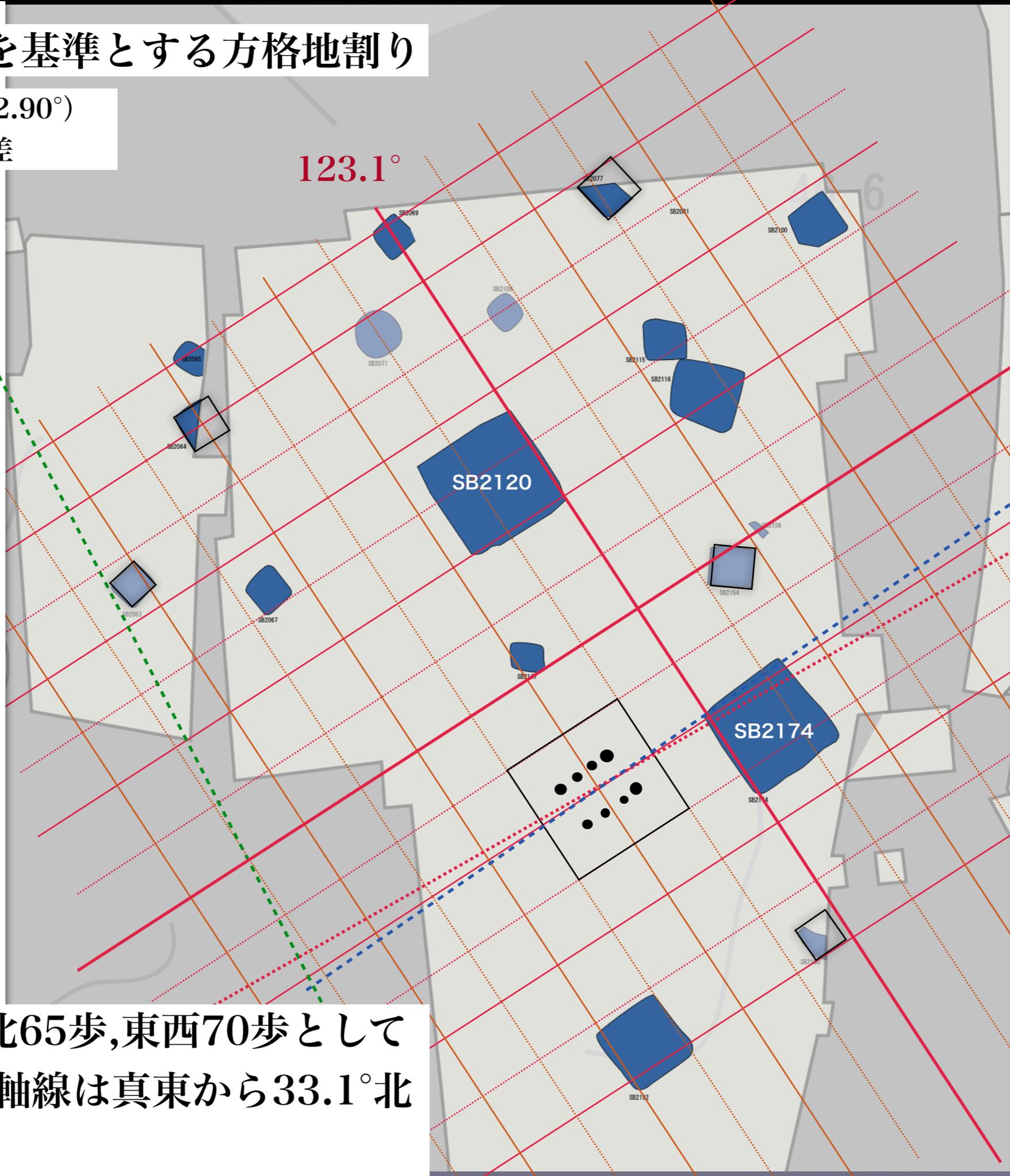


SB2120-SB2174間の距離は後漢尺の20歩なので、中間地点を仮想上の起点として全体を10歩単位の方格で覆ってみる

2棟の中央値を基準とする方格地割り

大山：117.1° (332.90°)

とは6°の誤差



北限の満月
329年12月23日
T.E+34.8°

T.E+33.1°

夏至日の出：
T.E+29.8°とは
3.3°の違い

造営企画は南北65歩,東西70歩として
把握可能.基本軸線は真東から33.1°北
に振れる

最有力候補は「高い月」の極大期の2年前の満月

The screenshot displays the StellarNavigator software interface. The main window shows a celestial simulation with a vertical dotted line indicating a declination of $T.E. + 30.9^\circ$. The interface includes a top menu bar with options like '流星・人工天体', '昼光・地形', '経緯線', '視野・写野', and 'ツール・ヘルプ'. A '日時' (Date/Time) panel is open, showing a calendar for AD 327/12 and a time zone of 9 hours. A '時刻系(S)' (Time System) panel shows '地方標準時' (Local Standard Time) selected. A '時刻の固定(F)' (Time Fixation) panel shows '日の出前' (Before Sunrise) selected. A '指定方法(M)' (Designation Method) panel shows '時間' (Time) selected. A '天体情報' (Celestial Information) panel is also open, displaying detailed data for the Moon (Moon) on December 15, 327 AD, including its age (14.9 days), apparent diameter (33.5'), and various coordinates.

ステラナビゲーターver.11画像

天体情報

月 Moon
月齢 14.9 視直径 33.5' 輝面比 1.00
赤経 07h21m41.1s 赤緯 +23°22'27" (J2000)
赤経 05h39m49.2s 赤緯 +24°36'58" (視位置)
赤経 07h18m40.2s 赤緯 +23°28'11" (B1950)
黄経 85°24'44" 黄緯 +01°02'31" (平均位置)
黄経 85°24'49" 黄緯 +01°02'34" (視位置)
黄経 108°41'06" 黄緯 +01°14'59" (J2000)
銀経 194°47'54" 銀緯 +16°45'47"
方位 239.062° 高度 0.221°
時角 -07h17m27s (-109.363°)
出 16:28 南中 --:-- 没 06:32
地心距離 35.65万 km
測心距離 35.65万 km
中央経度 -0.3° 中央緯度 -2.2°
満月 15:12

237年12月15日の同年北限の満月の出

最有力候補は「高い月」の極大期の2年前の満月

非常に記憶しやすい情景

T.W.-33.2°

冬至の日の入

T.W.-31.8°

神山

ステラナビゲーターver.11画像

日時

日時(D): AD327/6

時刻系(S):
 地方標準時
 地方平時
 世界時

タイムゾーン(Z):
+9 時 0 分

時刻の固定(E):
 日の出前 日の入り後

指定方法(M):
 時間 60 分後
 太陽高度 -18 度

現在の日時(N)

閉じる(C) ヘルプ(H)

天体情報

月 Moon

月齢 14.5 視直径 29.5' 輝面比 1.00

赤経 19h13m28.4s 赤緯 -24°04'18" (J2000)

赤経 17h31m05.7s 赤緯 -24°58'17" (視位置)

赤経 19h10m26.2s 赤緯 -24°09'26" (B1950)

黄経 263°26'57" 黄緯 -01°28'55" (平均位置)

黄経 263°27'01" 黄緯 -01°28'57" (視位置)

黄経 266°43'45" 黄緯 -01°41'33" (J2000)

銀経 13°21'53" 銀緯 -15°18'26"

方位 56.848° 高度 2.570°

時角 04h29m21s (67.337°)

出 19:12 南中 --- 没 04:08

地心距離 40.48万 km

測心距離 40.45万 km

中央経度 -1.7° 中央緯度 1.1°

満月 12:35

14748枚

14 16 18 20 22 0 2 4 6 8 10

暦・天文現象

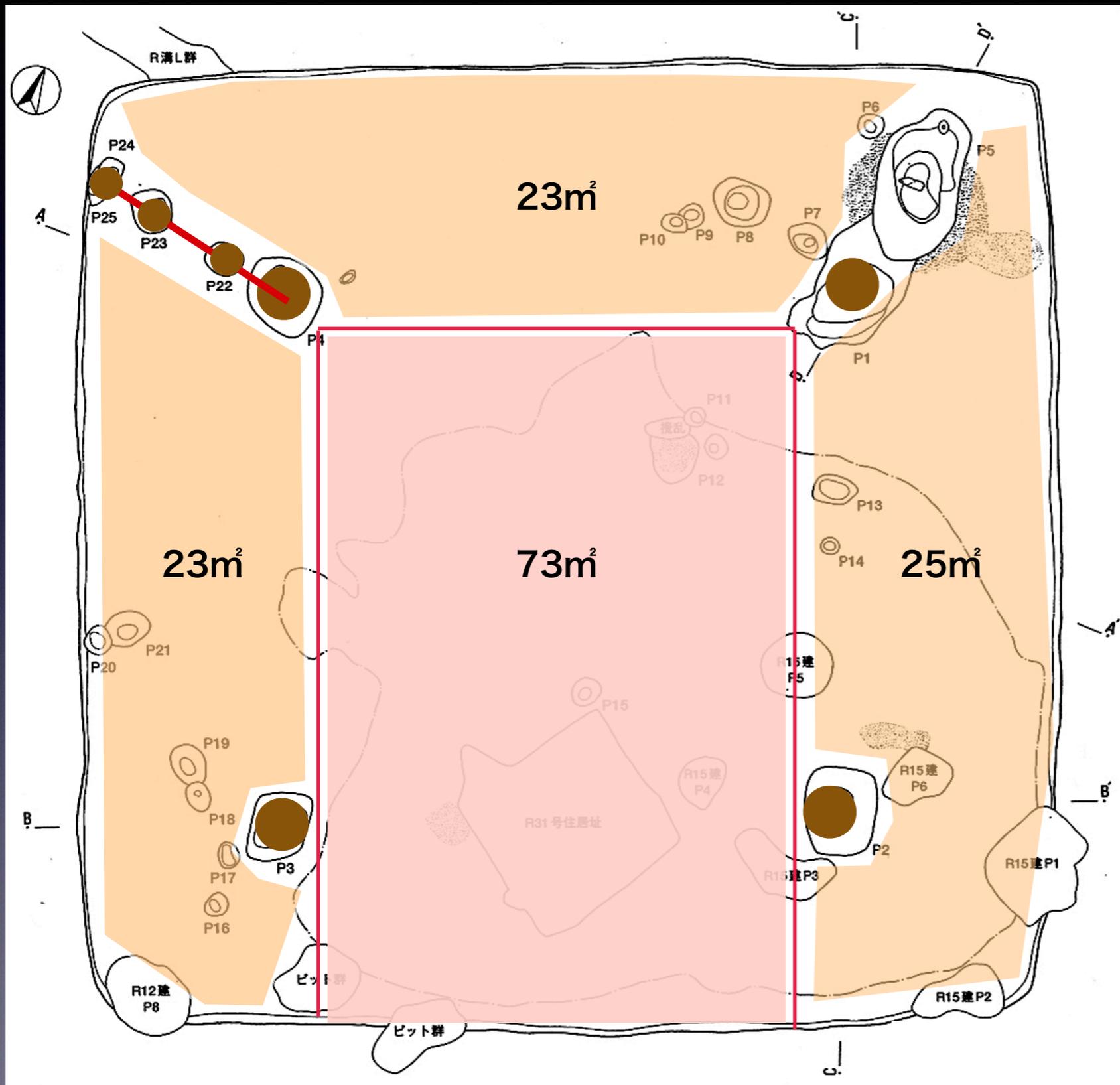
旧暦 327年 5月16日

月齢 14.8

- 12時35分 満月
- 10時58分 半影開始
- 12時27分 食の最大
- 13時56分 半影終了

237年6月21日の同年南限の満月の入り (午前3時49分)

最大規模の竪穴建物SB2120内部の仕切りと居住形態



首長の居宅は4部屋に仕切ることが可能

3組の配偶者と未成人の子供達を余裕で収容可能

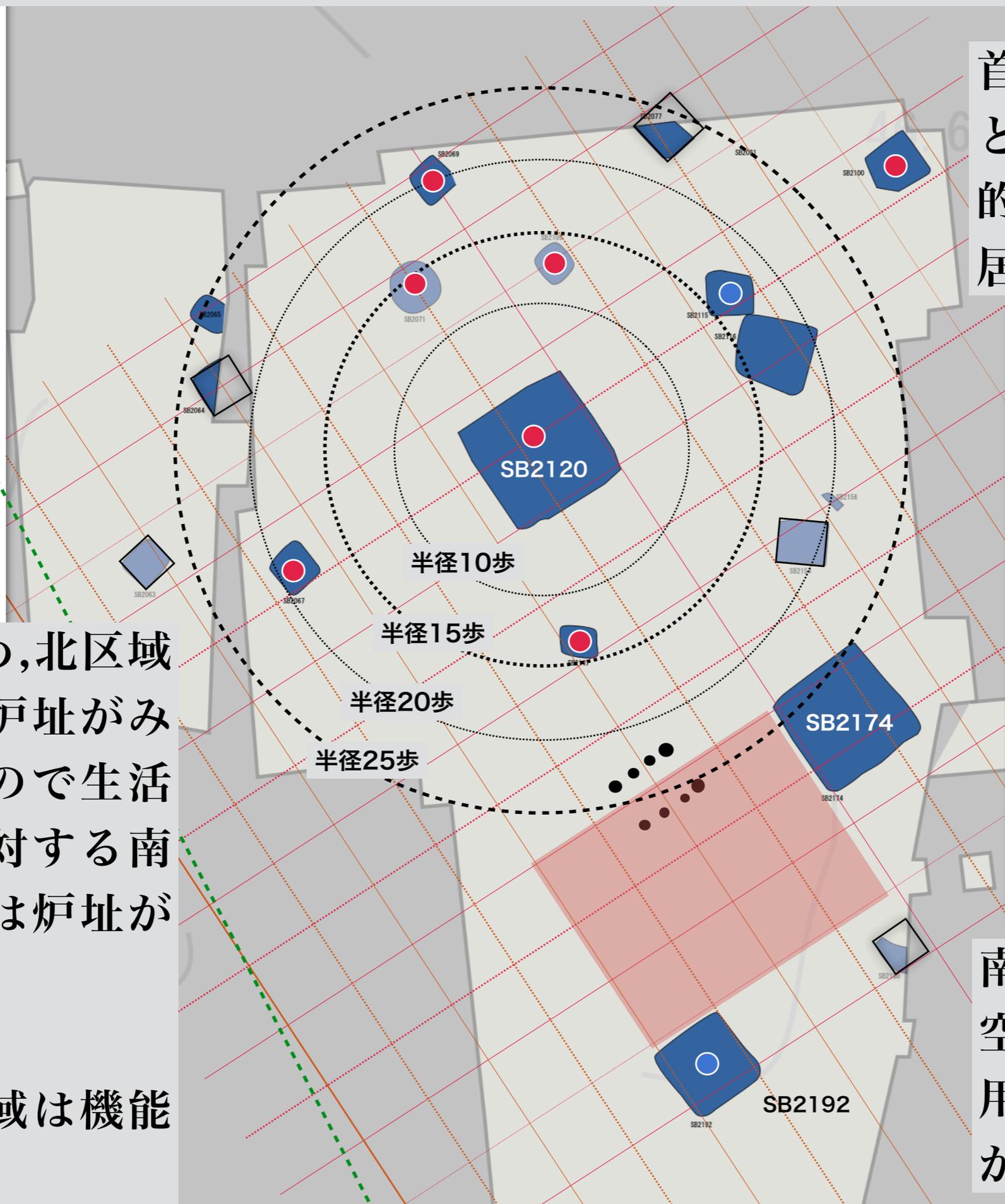
配偶者と子供達は別棟をあてがわれた可能性

中央の区画は賓客の応接や本地域集団を交えた懇談会場だった可能性

賓客の宿泊所でもあった可能性

北区域はSB2120を中心に同心円的な配置をとる

大山



首長居宅からの距離と規模によって階層的序列が明示された居住空間



SB2120を含め、北区域の建物からは炉址がみつかったので生活痕跡が明瞭。対する南区域の建物には炉址がない。

北区域と南区域は機能差をもつ

南区域は広大な屋外空間で脇の建物は汎用的で公共的な機能があった

A地区の首長居宅と祭礼・市場空間

真田・北金目遺跡群の最高所に造営

日知りや月読の拠点（日の出・日の入暦の観測場所）

類例：福岡県板付遺跡・奈良県唐古・鍵遺跡

後漢尺の新規導入

類例：各地の巨大前方後円墳

「高い月」の極大期より2年前の二至の満月が視準先

類例：青森県三内丸山遺跡・佐賀県吉野ヶ里遺跡北内郭・奈良県纏向遺跡

同心円状に可視化された居宅の階層序列

類例：滋賀県伊勢遺跡

広場としての祭礼・市場空間の併設

類例：吉野ヶ里遺跡南内郭・群馬県三ツ寺遺跡・福島県古屋敷遺跡など

A地区の首長居宅と祭礼・市場空間

最大の特徴は外周に区画溝や周溝・柵列を持たない事実

排他性をもたない開放的な空間

新たな社会変革を地域集団の全員が了解し受容することを目指した支配装置

ごく軽量な小型精製土器類は酒器「手のひらの中で実感する新たな社会の到来」



A地区の首長居宅と祭礼・市場空間

短命に終わった支配装置

大山を背景とする景観設計であり風水思想の「明堂モデル」に整合する

永続性を前提とした造営

現実には30年弱で放棄

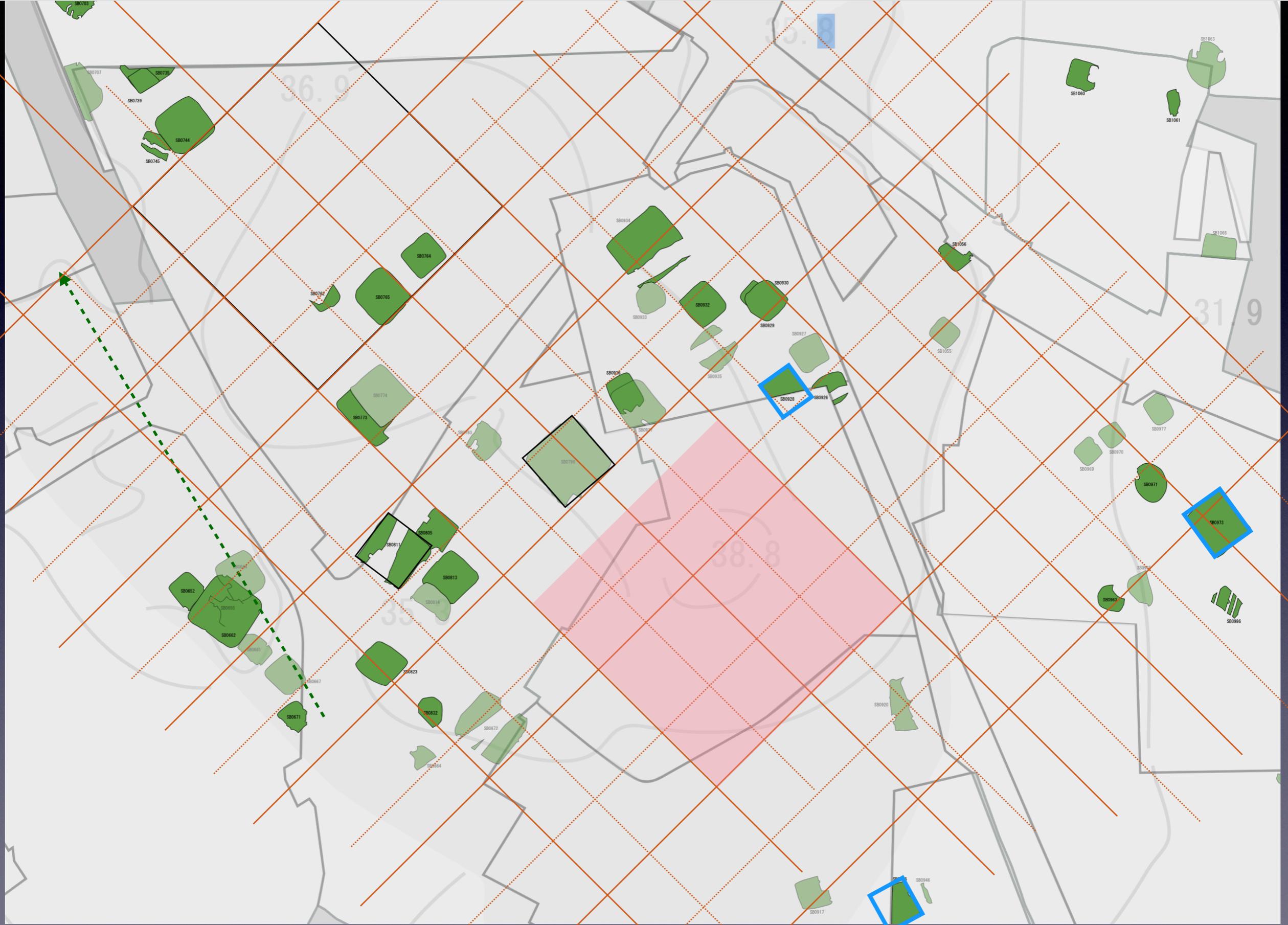
永続性の抛り所は古墳に委ねた

気候の再度の寒冷化・富士山の火山活動などの環境要因



G地区 の基本レイアウトは白川領域Bの中央値=大山-弘法山の中間方位

315° (真北から45°西に傾けた方位)



古墳時代前期後半に貫入した新たな方位観念

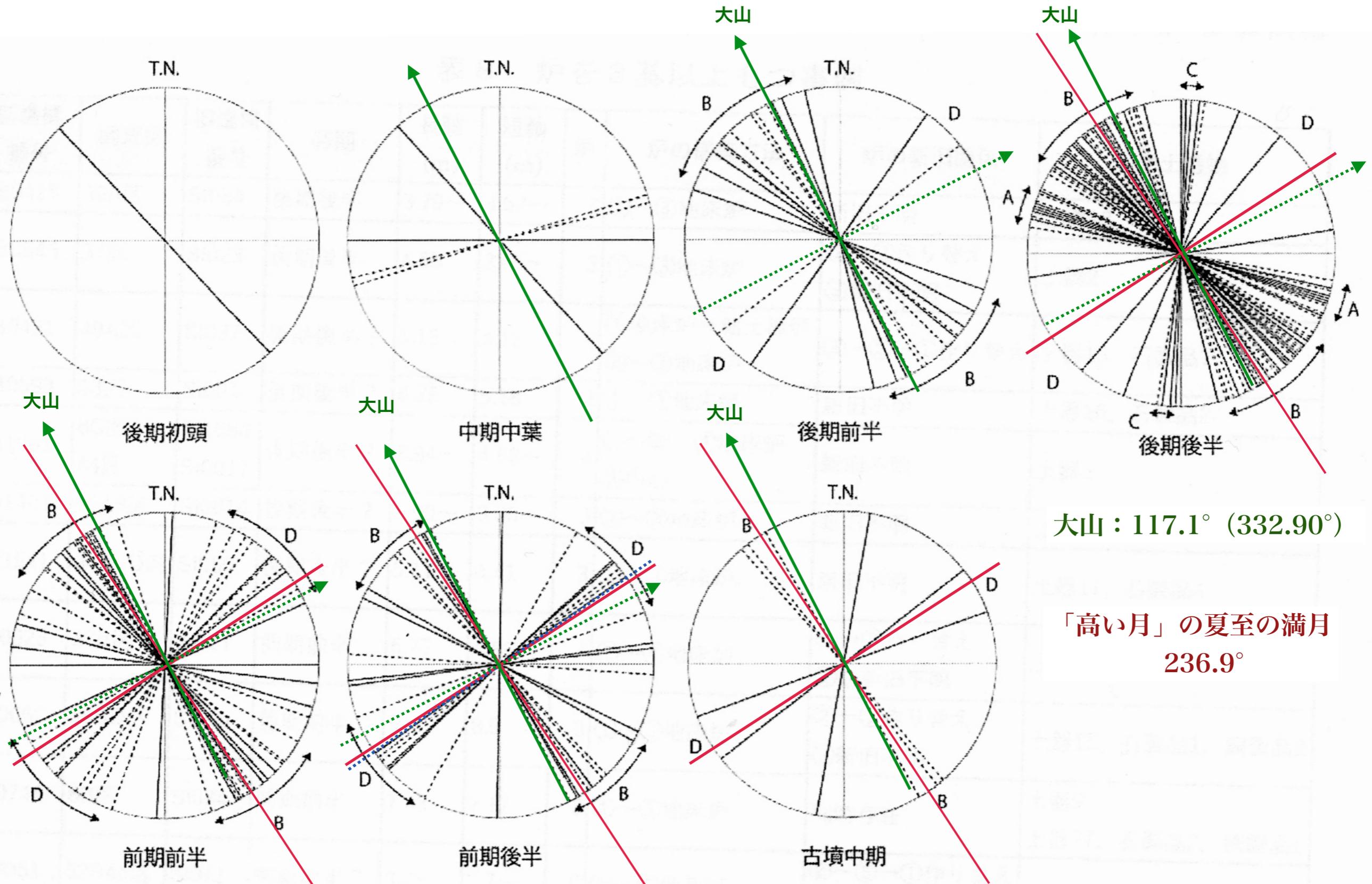


図 15 竖穴建物の方位